

消防庁長官表彰「ビデオ大賞」を受賞して

岩手県九戸郡軽米町

1 はじめに

軽米町は岩手県の最北端、北上山系の北部に位置しており、青森県八戸市と境界を接しています。低い山々のなだらかな丘陵地帯に囲まれた人口約1万1千人の町です。

雪谷川が町の中央部を北に向かって流れ、青森県八戸市から太平洋に注いでいます。

また、東北自動車道八戸線が町を南北に縦断しながら通っています。

気候は年平均気温約9.3度、年間降雨量約1,000mm以下と少なく、毎年、春先にはフェーン現象により高温、乾燥による山火事が心配されます。

町の産業は農業が主体で、稲作とタバコ、ホップなどの工芸作物との複合経営やプロイラー、黒毛和牛の畜産が盛んです。

町の上流には雪谷川ダムがあり、湖畔には春の連休には15万本のたくさんのチューリップが満開となるフォリストパーク・軽米や自然とたわむれるに最適な自然公園・ミレットパークなどがあり、観光施設と利用されています。

軽米町は全国有数の雑穀生産地であり「雑穀の里・軽米」として盛り上げようと今年の秋に「全国雑穀サミットinかるまい」を予定していますので、ぜひ一度足をお運びください。

2 軽米町消防団創設と歴史

公設消防が組織される明治42年まで軽米町の消防は各部落ごとに自警団的なものがつくられていて、火災発生のときには出動して消火にあたった。各家庭では常に天水オケといって屋根の上にタルをおき火災に備えていたほか、「用心回り」といって旧3月3日から5月5日の節句まで各家庭を順番に宿とし警戒にあたっていました。

軽米町消防団は明治42年に旧軽米村に当時の村長堀米重次郎氏が東京から腕用ポンプ11台を購入し組員50人、1部制で軽米村消防組が発足したのが始まりで、その後大正2年に2部、翌3年には3部に編成されました。

大正12年4月26日の大火は西風にあおられて、民家105棟、焼失山林積は百町歩にも及ぶ大被害と



市内パレード



初期消火訓練



なりました。この大火をきっかけとして、軽米町消防組を再編成し、六部制と組織し、消防活動が強化されました。また、町中心部の消防水利確保のため、配水路整備も行われました。

昭和30年輕米町、晴山村、小軽米村の一町二ヶ村が合併し、現在の軽米町が発足したことにより、消防団も軽米町消防団、晴山村消防団、小軽米村消防団、円子消防団が合併し新しく軽米町消防団として発足しました。

現在は、二戸地区広域消防軽米分署が設置され、1本部、8分団、27部、条例定数502名(実員数430名)で構成され、日頃から町民の生命、財産並びに安全・安心を守る地域に密着した活動を行っています。

ご存知のとおり、岩手県北沿岸地域は降水量が少ないため、過去に大火災が何度と無く発生しています。一例として昭和36年5月29日には三陸大火としてフェーン現象の強風により、岩手県北三陸沿岸地域の5つの市町村の山林、住家742戸を全焼し、災害救助法が発令されました。

幸いにも当町には被害はなかったのですが、このような中で「郷土の災害は自分たちの手で守る」をモットーとする活動が認められ、昭和43年に勲七等青色桐葉章、昭和48年に勲七等旭日章を、さらには昭和55年消防庁長官表彰旗を授与されました。また今年春の叙勲では瑞宝双光章、瑞宝単光章を授与されました。

また、昭和40年に軽米町婦人消防協力隊が結成され、その活動から、昭和58年日本消防協会表彰旗、消防庁長官安全功労表彰、昭和59年内閣総理大臣安全功労表彰をいただきました。

3 ビデオ大賞に至るまでの経緯

総務省消防庁の自治体消防制度60周年を記念事業として、魅力ある消防士・消防団員を広報するため、国民に身近で親しみのある消防をイメージした「消防士・消防団を主人公とした漫画・ビデオ」を全国から募集されました。



ビデオ撮影する本人

募集には、国民の生命を守る消防士や消防団員の日常や災害現場における活動などを漫画・ビデオを通じて国民に広く紹介し、理解を深めてもらうことを目的に実施されたものです。

ビデオ大賞を受賞いたしました堀米成嘉氏は「軽米食堂」を営みながら、忙しい合間を縫ってビデオを片手に話題・ネタを求めて野山の散策と、溪流つりの釣果を地元のテレビに投稿しています。「ふるさとCM大賞in I W A T E」には自分が所属する軽米ビデオサークルメンバーとアイデア賞、大賞、2007年には金賞を受賞しており、町内では少しは名の知れたビデオマンです。

今回、軽米町消防団第1分団第1部部長である堀米成嘉氏は何とか消防団を元気にしたいとビデオの腕を生かして、「消防団は町の元気応援団」をビデオ部門に応募したところビデオ大賞を受賞いたしました。

内容は軽米町で発生した1998年の山林142haが焼



ビデオ大賞ラッパ隊



秋の火災予防運動期間中のラッパ隊

失した火災、翌年の町中心部を襲った豪雨災害を通じて消防団員の生の活動をPR、住民には「自分達の町は自分の手で守ろう」「大規模災害にはみんなの生命、財産を守るためには住民同士の助け合いが大切」として、住民・子供達に、ジェットシューター、消火器、ホースの取り扱い訓練でなまりの入った話術でPRし笑いの中にもしっかり指導して消防団の活動に興味を持ち、身近に感じてもらう活動をお知らせすることで、団員の確保がされ、きっと良い町が出来る。そんな力強い思いが伝わってくるビデオです。

4 日頃の活動状況

軽米町消防団は、新年の出初め式に始まり、文

化財保護訓練、春の火災予防運動、住宅防火点検夏に行われる1ヶ月間に及ぶ毎夜の消防操法訓練操法大会、秋の消防演習、年末年始に行われる警戒と1年間を通して災害、特に火災から住民の生命や財産を守るため日夜活動しております。

5 今後の取り組み

日頃の活動状況からわかるように、消防団員の活動は片時も気の休まることはありません。そのためにも、団員確保には、堀米成嘉氏の消防団の活動を理解してもらうようにPR活動が欠かせません。今後は住宅用火災警報器の普及を図るなど、より一層住民と密接な活動が出来るように取り組んでいきたいと思っております。